

## 「大きな石は俺にもてころ」

うわじまし すみよし  
宇和島市の住吉小学校に入ると、しぜんいし  
自然石にきざまれ  
た「大きな石は俺にもてころ」の碑が目に入る。

「大きな石」とはどんな石だろうか。「もてころ」とはどんな意味だろうか。

これは、もりおかてんがい  
森岡天涯のことばである。

天涯は、明治12年(1879年)ひぶりじま  
宇和島市沖の日振島のまず  
貧しい家に生まれた。父親がしごと しっぱい  
仕事に失敗、大きな借金をかかえていた。父親の借金を返



すため、天涯は20歳のとき、思いきってアメリカ行きを決意した。まず、アメリカ船の水夫となり、その前渡し金30ドルを郷里の父親に送金した。そのあとハワイのさとうきび畑で働き、カナダのバンクーバーへ行った。そこでは、牛乳配達やホテルの皿洗いなど、さまざまな仕事について一生懸命働いた。その上自学自習

にはげんだ。一日のうち、寝る時間は4時間、残り20時間は仕事と読書についやした。

4年後、アメリカのシャトルに移り、新聞記者にもなり、借金を返すため働き続けた。そして、7年目に父親の借金をすべて返すことができた。

そして、大正8年(天涯40才)に父親が死亡したことなどにより帰国した。

「これからは、アメリカで学んだことを生かし、ふるさとの日振島のために尽くそう」と決意した。

その当時、日振島には、2000人を超えるたくさんの人たちが、狭い畑での農業と漁業で細々と自給自足の生活をしていたが、人々は、貧しい暮らしを忘れるため、「きょうもさけさけあすも酒」のうたのように、他の地域にくらべて何倍ものお酒を飲んでいて。そのため、人々の暮らしは、ますます貧しくなり、人々の心は、すさむばかりであった。

天涯は、日振島の暮らしを向上させるには、まず、酒を飲む量をへらすことであると考えた。村の有力者にそのことを言ったが、鼻の先であしらわれた。なん百年と続いてきた長年のならわしを変えることは困難であった。しかし、天涯はくじけなかった。

村の人に会うごとに、「お酒が原因で貧しい暮らしになったり、家庭が崩壊したり、犯罪



を犯したりする」「酒をのむ量をへらそう」と時には怒りながら、時には泣きながらうったえ続けた。このうったえは根気強く、3年、4年、5年と続いた。5年たったころ、ようやく、協力者が出始め、大正14年には、島全体で飲む酒の量を五分の一にへらすことに成功した。そのため、人々のくらしはしだいに向上していった。

次に、道路つくりに取り組んだ。それまで、日振島には、人がやっと歩けるだけの細い道しかなかった。そこで、荷車も通れる幅九尺(2.7メートル)の広い道を作ることを提案した。そして、「自分たちの村の道は、自分たちの力でつくろう」と呼びかけた。すなわち、道路になる土地は持ち主に無料で出してもらい、道路工事も、村人の奉仕作業とするものであった。天涯の熱意にこたえて、人々は協力した。そして、12キロメートルの道路は、3~4年はかかると言われていたのに、わずか、3か月で完成した。

そのほか、天涯は、特に教育に力を注いだ。まず、狭い村に三つもあった小学校を一つにまとめ、りっぱな校舎の学校をつくった。そして、その校舎を利用して、「全村学校」という村人のための教室を開き、そこでは、家庭生活の在り方や「カキ」や「のり」の養殖法や魚の取り方などが教えられた。

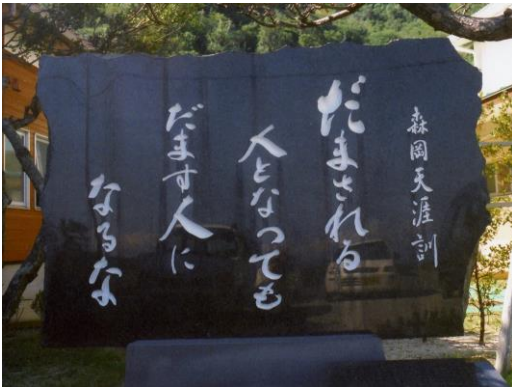
このような天涯の努力が実り、日振島は生活や文化が向上した模範の村として全国に知られるようになった。

天涯は、その後、宇和島市にりっぱな南予文化会館をつくることを中心になって進めたり、NHKのラジオ番組では「村づくり」について全国放送をしたり、全国各地で講演を行ったりしたが、昭和9年56才で亡くなられた。

このように、天涯は、父親の借金を返すことから始まり、むつかしい問題にしんげんに取り組み、それらをつぎつぎと乗り越えていった。そのようなことから、「大きな石は俺にもてころ」ということばが残されたのである。

そのことばには、「大きな石は俺が運ぶ、君は軽いのを運べ、いやなこと、苦しいこと、きたないこと、なんでも俺が引き受けるから持ってこい」の意味がこめられている。

住吉小学校では、この天涯のことばを昭和51年より学校の校訓とし、この「もてころ精神」を大切に受けついで活動をつづけてきている。



平成 19 年 10 月、宇和海の日振島をたずねた。お  
だやかな秋あき日和びより和なのに高速艇は、高い波で大きく上  
下した。この島で一番印象に残ったのは、日振島小  
学校である。現在はわずか 13 名の在校生であるが、  
広い運動場、3 年前に新築された輝くようなりっぱ  
な校舎に感心した。

そして、玄関にある大きな森岡天涯の碑のことば

「だまされる人になっても、だます人になるな」

日振島でも、天涯の心が子どもたちにしっかりと受け継がれている。

○ 森岡天涯に関する碑

「森岡天涯碑」宇和島市住吉町 南予青年の家

○ お世話になった方

元宇和島市立住吉小学校長 兵頭竜郎

宇和島市立日振島小学校長 吉岡奈緒美

○ 参考にさせていただいた資料や本

「むらの記録 森岡天涯」

「日振島の昭和史」田中皓正

「えひめの偉人伝」愛媛新聞社